

みなさま、こんにちは。名理会実践研究部会です。

実践研究部会では、「中学校理科に携わる会員の授業力、力量の向上」をミッションとして活動しています。活動の大きな柱は「秋に行われる授業公開に向けた検討」と「日々の授業作りに役立つアイデア研修」です。

実践研究部会の活動の様子は、この「みんなで創る理科授業」にて紹介していきます。興味を持たれた方、参加したい方は、メンバーまでご連絡ください。共に学びましょう。

それでは、6月27日（木）に開催された実践研究部会での活動を紹介します。今回は、昨年度に続き、名古屋市科学館学芸員の高羽 幸さんにもご参加いただきました。

今回の参加者のみなさん



神沢中

瀧田健司先生



山王中

阿比留慶治先生



当知中

丹羽良平先生



富士中

濱地光大先生



笹島中

井上将孝先生



沢上中

山下剛史先生



城山中

小林正嵩先生



扇台中

小比賀正規先生



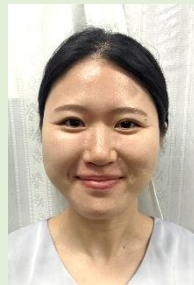
港北中

佐藤友哉先生



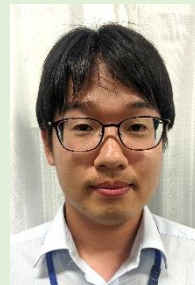
吉根中

永冶友希先生



豊国中

加藤真奈美先生



川名中

島田長昇先生



守山西中

常行健太郎先生



千鳥丘中

加賀山聖輝先生



北中

旦野智啓先生



名古屋市科学館

高羽 幸さん

秋の授業公開について

秋の授業公開の授業者である港北中学校の佐藤友哉先生より、生徒の実態、これまで取り組んできた授業（実践）で大切にしてきたこと、今年度の理科授業でやってみよう（力を入れてみよう）と考えていることなどについて説明してもらいました。

佐藤先生は、理科の授業を「与えられるものを行う」と認識している生徒が多いことが課題であると捉えており、教員からの教授待ちではなく、生徒が当事者意識を持って学ぶことができる授業を目指しているそうです。そして今回は、単元を貫くパフォーマンス課題を設定し、その解決に向けて学習内容、順番、方法等を生徒各自が選びながら学ぶことができるよう単元内自由進度学習を取り入れた実践を行ってみたいとのことでした。

授業の構想について参加者が共有したところで、具体的な対象生徒や単元などを踏まえ、授業の具体化に向けた話し合いを行いました。佐藤先生との質疑応答や、単元指導計画について議論する中で、「生徒のやりたいことが教科書と全く違った場合の対応」「内容的に適切で、時間的にも実現可能なパフォーマンス課題の設定」「生徒による学習計画立案の実施」などが今後の課題、授業作りにおける留意すべき視点として挙げられました。佐藤先生の実践の検討を通して、参加者全員が授業作りの理解を深める機会になりました。

名理会 秋の授業公開

令和6年10月25日（金）午後 場所：港北中学校 授業者：佐藤 友哉先生
実践単元：中1「単元3 身近な物理現象 1章 光の性質」

授業作りアイデア

沢上中学校の山下剛史先生から、「自分に合ったペースや方法で学ぶ」姿を引き出す授業作りの紹介がありました。

ナゴヤ学びのコンパスには、重視したい学びの姿に「自分に合ったペースや方法で学ぶ」（自由進度学習）とあります。山下先生から自由進度学習の良い点（効能・メリット）は何か、何を行うと自由進度と呼べるのか、などの話があり、ナゴヤ学びのコンパスや自由進度学習を振り返る時間となりました。

そして、授業の中で、子どもたちの興味・関心や学習のペース、習熟度等に応じて、子どもたちが自分に必要な課題や学習活動を選択して取り組むことができる学習を取り入れると良いという話がありました。参考文献としては、「超具体！自由進度学習はじめの1歩」（難波駿）の紹介がありました。

その他、山王中学校の阿比留慶治先生から、第71回全国中学校理科教育研究大会（全中理）山梨大会の紹介がありました。

また、名古屋市科学館の高羽 幸さんから、科学館と学校との連携についての紹介や要望の聞き取りを行いました。